

祈りの輪のロザリオ（3）

2020年5月1日（金）

【導入】（古屋敷シスター）

皆さん、新型コロナウイルス感染終息のために続けられているロザリオの祈りの輪に、今日も連なってください、心から感謝申し上げます。大きな困難に直面して苦しむ世界の人々の為、聖母マリアの取り次ぎを願って祈りたいと思います。今日は「喜びの神秘」を用いますが、各連の黙想への招きの言葉に替えて、カトリック聖歌集 371 番を 1 番ずつ歌って行きたいと思いますので、よろしくお願いいたします。初めに、福音朗読を聞きましょう。

【福音朗読とメッセージ】（白浜）

【ルカ 2 章 41～50】

さて〔イエスの〕両親は過越祭には毎年エルサレムへ旅をした。イエスが十二歳になったときも、両親は祭りの慣習に従って都に上った。祭りの期間が終わって帰路についたとき、少年イエスはエルサレムに残っておられたが、両親はそれに気づかなかった。イエスが道連れの中にいるものと思い、一日分の道のりを行ってしまい、それから、親類や知人の間を捜し回ったが、見つからなかったので、捜しながらエルサレムに引き返した。三日の後、イエスが神殿の境内で学者たちの真ん中に座り、話を聞いたり質問したりしておられるのを見つけた。聞いている人は皆、イエスの賢い受け答えに驚いていた。両親はイエスを見て驚き、母が言った。「なぜこんなことをしてくれたのです。御覧なさい。お父さんもわたしも心配して捜していたのです。」すると、イエスは言われた。「どうしてわたしを捜したのですか。わたしが自分の父の家にいるのは当たり前だということを、知らなかったのですか。しかし、両親にはイエスの言葉の意味が分からなかった。

（メッセージ）

皆さん、今日から五月が始まりました。五月は、主イエスの復活が祝われる季節であると同時に、伝統的に聖母マリアにささげられた月でもあります。この聖母月を迎える前の 4 月 25 日（聖マルコ福音記者の祝日）に、教皇フランシスコはすべての信者に宛てて、「聖母月に、家でロザリオの祈りを」という短い書簡を送られました。

もうすでにお読みなられた方も多いかもかもしれません。教皇フランシスコは、新型コロナウイルスのパンデミック（世界的大流行）の危機の中で、教会が大切にしてきたロザリオの祈りを、家庭で唱える霊的な価値を見つめ直すように教え、次のように呼びかけています。

「親愛なる兄弟姉妹の皆さん、キリストの御顔を、マリアの心をもって共に観想しましょう。わたしたちの母であるマリアは、わたしたちを霊的家族としてより一致させ、わたしたちがこの試練を乗り越えられるよう助けてくださるでしょう」と。

ロザリオの祈りは、「マリアの心をもって、キリストの御顔を観想することです」と、教皇フランシスコは教えています。キリストの御顔には、人間の姿と同時に、神の御子としての姿がありました。マリアは、キリストの人間の姿の奥に示される、神の子の姿を絶えず見つめ、その救いのわざに協力するよう招かれていました。マリアほど、深い信仰が求められた人はいなかったでしょう。しかし、マリアは「お言葉どおり、この身に成りますように」と、どんなことでも受け入れる心構えをもって、キリストの生涯に寄り添いました。

この五月に、喜びの神秘から始めて、ロザリオの四つの神秘のすべてを、マリアの心をもって黙想しながら、今も、神の招きに応える人の中で働いてくださる、復活されたキリストの御顔を見出すことができるよう、共に祈りましょう。

【先唱】（古屋敷シスター）

それでは、教皇フランシスコが作られた「聖母マリアへの祈り 1」を一緒に唱えましょう。

聖マリア、
あなたは救いと希望のしるしとして、
いつもわたしたちの歩みを照らしておられます。
病人の希望であるあなたに信頼して祈ります。
あなたは十字架の下で、揺るぎない信仰をもって、
イエスと苦しみとともにされました。
〔わたしたちの助け手〕であるマリア、
あなたはわたしたちに必要なものをご存じです。
わたしたちはあなたがそれを与えてくださると信じています。
ガリラヤのカナでなされたように、
この試練の後に喜び祝うときが再び訪れますように。
愛である神の母マリア、わたしたちを助けてください。
わたしたちが御父のみ心に応え、
イエスのことばに従って生きることができるよう。
イエスはわたしたちの苦しみをその身に負い、
わたしたちの悲しみを引き受け、
十字架を通して、
わたしたちを復活の喜びに導いてくださいます。アーメン。

神の母聖マリア、
あなたのご保護により頼みます。
苦難のうちにあるわたしたちの願いを聞き入れてください。
栄光に輝く幸いなおとめよ、
あらゆる危険から、いつもわたしたちをお救いください。

【ロザリオの祈り】 — 「喜びの神秘」 — (白浜)

【使徒信条】

天地の創造主、全能の父である神を信じます。
父のひとり子、わたしたちの主イエス・キリストを信じます。
主は聖霊によってやどり、おとめマリアから生まれ、
ポンティオ・ピラトのもとで苦しみ受け、
十字架につけられて死に、葬られ、陰府に下り、
三日目に死者のうちから復活し、天に昇って
全能の父である神の右の座に着き、
生者（せいしゃ）と死者を裁くために来られます。
聖霊を信じ、聖なる普遍の教会、聖徒の交わり、
罪のゆるし、からだの復活、永遠のいのちを信じます。
アーメン。

【主の祈り】 (1回)

天におられるわたしたちの父よ、
み名が聖とされますように。
み国が来ますように。
みこころが天に行われるとおりに地にも行われますように。
わたしたちの日ごとの糧を今日もお与えください。
わたしたちの罪をおゆるしください。わたしたちも人をゆるします。
わたしたちを誘惑におちいらせず、悪からお救いください。
アーメン。

【アヴェ・マリアの祈り】(3回)

アヴェ、マリア、恵みに満ちた方、

主はあなたとともにおられます。

あなたは女のうちに祝福され、ご胎内の御子イエスも祝福されています。

神の母聖マリア、わたしたち罪びとのために、

今も、死を迎える時も、お祈りください。アーメン。

【栄唱】

栄光は父と子と聖霊に。

初めのように今もいつも世々に。アーメン。

第1の黙想 マリア、神のお告げを受ける(日本語：荻神父)

み使いの告げ給えば へりくだりたもうマリア

み救いのみ子の母と ここに定まりましぬ

(繰り返し)

みかむりはロザリオ ばらの花 うちかおり

祈りは珠(たま)の数々 み前にささげまつる

【主の祈り】(1回)

【アヴェ・マリアの祈り】(10回)

【栄唱】(1回)

第2の黙想 マリア、エリサベトを訪問する(英語：久保神父)

山路越えユダの町に エリサベトを訪い給う

わが主のみ母来ますと 母と子は喜べり

(繰り返し)

みかむりはロザリオ ばらの花 うちかおり

祈りは珠(たま)の数々 み前にささげまつる

【主の祈り】(1回)

【アヴェ・マリアの祈り】(10回)

【栄唱】(1回)

第3の黙想 マリア、イエスを生む(韓国語：古屋敷シスター)

人知らぬ村のはずれ ようやく辿り来まして

貧しきうまやのうちに まこと み子 あれましぬ

(繰り返し)

みかむりはロザリオ ばらの花 うちかおり

祈りは珠(たま)の数々 み前にささげまつる

【主の祈り】(1回)

【アヴェ・マリアの祈り】(10回)

【栄唱】(1回)

第4の黙想 マリア、イエスをささげる(ポルトガル語：野中神父)

厳しき掟のままに 天(あめ)にいます御父に

幼児(おさなご)をささげたもう とうとし母のみ旨

(繰り返し)

みかむりはロザリオ ばらの花 うちかおり

祈りは珠(たま)の数々 み前にささげまつる

- 【主の祈り】(1回)
- 【アヴェ・マリアの祈り】(10回)
- 【栄唱】(1回)

第5の黙想 マリア、イエスを見いだす(フランス語：シルベスター助祭)

聖殿に見失ないし み子を今し見出しぬ
相見るこの喜びを 心におさめ居たり
(繰り返し)
みかむりはロザリオ ばらの花 うちかおり
祈りは珠(たま)の数々 み前にささげまつる
【主の祈り】(1回)
【アヴェ・マリアの祈り】(10回)
【栄唱】(1回)

【結びに】(古屋敷シスター)

皆さん、聖母マリアのように、御子イエスに奉仕して生きることができるよう、派遣の祝福をいただきましょう。

【祝福】(白浜)

司 主は皆さんとともに。
一同 また司祭とともに。
司 全能の神、父と子と聖霊の祝福が + 皆さんの上にありますように。
一同 アーメン。
司 ロザリオの祈りを終わります。行きましょう、主の平和のうちに。
一同 神に感謝。

【カトリック聖歌集】351番「さつきのきさきを」1番・2番(荻神父)

- 1 五月(さつき)のきさきを あめつち歌う
ひと年(とせ)めぐりて 百合咲く季節
マリア祝しませ 祝せられませ
- 2 マリアのみ前に 千草(ちぐさ)みだれて
色とりどりにぞ 織りなす錦(にしき)
み飾りにせよと 地は咲き出でぬ

【聖歌の後】(古屋敷シスター)

皆さん、今日も、ロザリオの祈りの輪に加わっていただき、どうも有難うございました。この祈りのためのテキストは、毎週、木曜日までに広島教区のホームページに掲載されます。もしよろしければ、テキストをご覧になって、一緒にお祈りください。それでは、皆さん、お体にはくれぐれも、気をつけて お過ごしください。また、来週、よろしくお祈いします。さようなら。